

高等学校 令和6年度（3学年用）教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 A組～ F組

教科担当者：（小笠原）

使用教科書：（新編古典探究 東京書籍 みるみる覚える古文単語300+30いわずな書店

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究 の目標：言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話	書	読					
宇治拾遺物語 「小野篁、広才のこと」 【知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、オ	【小野篁、広才のこと】 1 帝の篁への疑いの原因と、その疑いを晴らしたものが、ともに篁の学才にあることを理解する。（手引き1） 2 言葉遊びのおもしろさがどこにあるかを読み取る。（手引き2） 3 「帝はほ笑ませ給ひて、事なくてやみにけり。」となった理由を考える。（手引き3） □帝と篁のやりとりのおもしろさをまとめる。	○	○	○	・【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容を解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 【主】進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、説話を正確に読み取ろうと	○	○	○	4
徒然草【丹波に出雲といふ所あり】 【九月二十日のころ】 知技】(1)ア、イ、ウ、エ／(2)ア、イ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、カ ○活読むこと(2)ア	【丹波に出雲といふ所あり】 1 主語を確認しながら、話のあらすじを読み取る。 2 聖海上人の言葉の変化に沿って、その心情を読み取る。（手引き1） 3 この話のおもしろさは、どういうところにあるか説明する。（手引き2・3） 【九月二十日のころ】 1 主語に注意しながら、話のあらすじを読み取る。（手引き1） 2 人物の行動を整理する。（手引き1） 3 作者の「その人」に対する評価をまとめる。（手引き2・3） 4 絵の違いを見つけ、その違いについて考えたことを話し合う。（言語活動）	○	○	○	・【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】進んで絵巻と本文とを関連付けて捉え、学習課題に	○	○	○	4
小話一四編【蛇足】【断腸】 【知技】(1)ア、イ／(2)ア、イ、ウ 【思判表】読むこと(1)ア、イ、ウ、キ ○活読むこと(2)ア 【知技】(1)ア、イ／(2)ア、エ 【思判表】読むこと(1)ウ、エ	【蛇足】 1 本文を正しく音読する。 2 脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。（手引き1） 3 「為スニ蛇ノ足ヲ者」が酒を失った理由を考える。 4 「蛇足」などの故事成語の意味や使い方を辞書で確認する。（手引き2・3） 【断腸】 1 本文を正しく音読する。 2 脚注を参考にしながら本文を書き下し、現代語訳する。 3 桓公が「狼ノ子」を得た者を罷免した理由を考える。（手引き1） 4 「断腸」という故事成語の意味や使い方を辞書で確認する。（手引き2）	○	○	○	・【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】進んで絵巻と本文とを関連付けて捉え、学習課題に	○	○	○	4

1
学期

2 学 期	<p>小倉百人一首の世界『小倉百人一首』より [知技] (1)ア, イ, ウ, エ / (2)ア, イ, エ [思判表] 読むこと(1)ア, イ, ウ, カ, ク</p>	<p>□『小倉百人一首』の中で知っている歌を挙げ、その意味を確認する。 □『小倉百人一首』の成立について、簡単な経緯を知る。 1 「君がため…」の歌について、筆者が「視覚」「心情」それぞれの面からどのように評価しているかを確認する。(手引き1①) 2 「ちはやぶる…」の歌について、どのような情景を詠んだと考えられるかを確認する。(手引き1②) 3 「わが袖は…」の歌について、「沖の石」のどのような状態を、どのような心情にたとえたかを確認する。(手引き1③) 4 「めぐりあひて…」の歌について、月のどのような様子を、幼友達のどのような様子にたとえたかを確認する。(手引き1④) 5 教科書に鑑賞文が掲載された歌以外の和歌を鑑賞する。(言語活動)</p>	○	○	○	<p>[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方を親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 進んで和歌を多面的・多角的な視点から評価し、学習課題に沿って作者の置かれた境遇や物語に向</p>	○	○	4
	<p>読む 更級日記 ■古文の窓2 日記文学—『蜻蛉日記』と『更級日記』 [知技] (1)ア, イ, ウ, エ / (2)ア, イ [思判表] 読むこと(1)ア, イ, エ, オ</p>	<p>□日記文学の流れと概要について学び、理解する。 □『更級日記』とその作者について理解する。 □当時の東国から都までの旅について、そのおおよそを確認する。 【物語】 1 本文を読み、「源氏の物語」を手に入れた経緯と、それまでの作者の気持ちをもとめる。(手引き1) 2 「源氏の物語」を読む感動はどのように描かれているか、まとめる。(手引き2) 3 ここに語られる「夢」とはどういうものか理解し、それに対する作者の態度を読み取る。 4 「まついとほかなく、あさまし。」という表現に注目して、少女時代の物語耽溺に対する晩年の思いを知る。(手引き3)</p>	○	○	○	<p>[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [主] 進んで文学史における日記文学の位置づけについて理解し、学習課題に沿って作者の置かれた境遇や物語に向</p>	○	○	2
	<p>読む 伊勢物語 P94 5時間 [知技] (1)ア, イ, ウ, エ / (2)ア, イ [思判表] 読むこと(1)ア, イ, ウ, カ</p>	<p>□歌物語の特徴および『伊勢物語』について、既習の事柄を整理する。 【東下り】 1 本文を通読し、旅の行程に注目しながら、いくつかの場面に分ける。(手引き1) 2 第二段落の重要語に注意し、現代語訳する。 3 主人公の「男」が「東下り」をするに至った事情について学び、その時の男の心情を考える。 4 「唐衣…」の歌に用いられた和歌の修辭を理解するとともに、そこに読み込まれた心情を理解する。(手引き2) 5 第二～第五段落において、どのような場所を、どのように旅したか、具体的に考える。 6 第二～第四段落において、「宇津の山」「富士の山」がどのように描写され、和歌に取り入れられているか考える。 7 第五段落において、「すみだ川」のほりでの、男たちの心情について考える。(手引き2) 8 全体を読み直し、男たちの心情の変化を、和歌に着目し、整理する。</p>	○	○	○	<p>[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に歌物語の特徴について理解し、今までの学習を生かして、登場人物の心情や作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。</p>	○	○	4
学	<p>読む 源氏物語 [言語] [知技] (1)ア, イ, ウ, エ / (2)ア, イ, ウ [思判表] 読むこと(1)ア, イ, ウ, エ, カ, ク ○活読むこと(2)ア [知技] (1)イ / (2)ア [思判表] 読むこと(1)エ</p>	<p>□「出典・作者」の項を参考にして、作品と作者について必要な知識を得る。 【光源氏の誕生】 1 全体を通読し、現代語訳をする。 2 歌語について理解する。 3 物語世界がどのような状況であるかを理解する。(手引き1・2・3) 4 物語の書きだしについて考える。(手引き4) 【若衆】 1 全体を通読し、現代語訳をする。 2 登場人物について整理し、理解する。 3 登場人物の描写の特徴を理解する。(手引き1) 4 登場人物の心情を読み取る。(手引き2・3) 5 絵画に描かれた場面と本文とを比べる。(言語活動) *Dこの教材には、関連するデジタルコンテンツが用意されているので、適宜利用するとよい。 [知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深</p>	○	○	○	<p>[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通じて、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。 [思判表] ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。 [主] 積極的に他の作品で書かれたり絵に描かれたりした『源氏物語』と本文とを比較し、今までの学習を生かして登場人物の行動や話の概要とその意味について考察しようとしている。</p>	○	○	6
	<p>読む 項羽と劉邦 [言語] P182 7時間 [知技] (1)ア, イ, ウ / (2)ウ, エ [思判表] 読むこと(1)ア, イ, エ, カ</p>	<p>□「本紀」「紀伝体」等の形式を確認する。 【鴻門之会】 1 第一段落と第二段落を音読し、書き下し文で留意する箇所を確認する。 2 第一段落と第二段落を現代語訳し、登場人物を項羽側と沛公側とに分けて</p>	○	○	○	<p>[知技] ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成</p>	○	○	

3 学 期	読むこと(2)ア	<p>整理する。(手引き1)</p> <p>3 第三段落の第一節と第二節(一八七・2まで)を音読し、書き下し文で留意する箇所を確認する。</p> <p>4 第三段落の第一節と第二節を現代語訳し、新たな登場人物を整理する。(手引き1)</p> <p>5 第三段落の第三節と第四段落を音読し、書き下し文で留意する箇所を確認する。</p> <p>6 第三段落の第三節と第四段落を現代語訳し、登場人物のはたらき、奨諭の主張をまとめる。(手引き2・3)</p> <p>7 沛公が無事に脱出できた理由を話し合う。(手引き4)</p> <p>【四面楚歌】</p> <p>1 本文の前半(一九一・1「騎之」まで)を音読する。</p> <p>2 句法に注意して本文前半を書き下し、現代語訳する。(手引き1)</p> <p>3 本文の後半(一九一・1「於是」以降)を音読する。</p> <p>4 句法に注意して本文後半を書き下し、現代語訳する。(手引き2)</p>	○	○	○	<p>り立ちにもたらした影響について理解を深めている。</p> <p>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。</p> <p>【思辨表】</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。</p> <p>・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。</p> <p>・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>【主】 進んで登場人物の行動や心情、起こった出来事などを捉え、学習課題に沿って感じたことを話し合おうとしている。</p>	○	○	○	6
		合計								
34										